

ふるさと森林公園の樹木

ふるさと森林公園には、里山で様々な利用をされてきた樹木があり、シイ・カシ類やタブノキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹を主体に、コナラやヤマザクラなどの落葉広葉樹が見られます。園内には、自生の樹木と植栽木に加え、風や動物によって外から運ばれた種子から芽生えた樹木も生育しており、200種以上の樹木が季節ごとに様々な表情を見せてくれます。このリーフレットでは樹木に興味を持っていたげよう、花や実の特徴や人との関わりなどを紹介しています。なお、名前の由来は諸説あるものがあり、その一部を紹介しています。

樹木観察のポイント

樹木はそれぞれ様々な特徴をもっています。そこで、樹木を見分けるポイントをいくつか紹介しましょう。

1 全体

まず樹木全体を見て

● 広葉樹か ● 針葉樹か ● 常緑樹か ● 落葉樹か
常緑樹は新しい葉と古い葉が混じる。落葉樹は毎年葉を新しくする。

大きさは
高木 …………… 成木の高さが8~10m以上のもの
小高木 …………… 成木の高さが2~10mくらいのもの
低木 …………… 成木の高さが3~4m以下のもの

2 葉

花や果実はよく目立ちますが、いつもあるとは限りません。そんな時は葉を見ましょう。

葉の形	単葉		複葉	
葉のつき方	対生		互生	
葉の緑の形	全縁		鋸歯縁	

3 注意



上の樹木は人によってはかぶれることがあります。観察する時は十分注意してください。

ふるさと森林公園

公園には里山で利用されてきた樹木と緑化木・花木など親しめる樹木があり、気軽に森と自然にふれあえる場所として県民に親しまれています。森の散策のほか、森林・林業について学べる「森林学習展示館」、遊具等が楽しめる「多目的広場」、島根半島の山々や宍道湖を見渡せる「展望台」などがあります。また、宿泊施設やテニスコート等もあります。

公園ご利用について

公園を快適に利用いただくため、次のルールを守ってください。

1. 自動車、バイクは所定の駐車場に止めて下さい。
2. ごみ、お連れになったペットの糞等は各自お持ち帰り下さい。
3. 公園内の植物は採取しないで下さい。
4. みなさまが安全に楽しく利用できるよう、危険な行為は慎んで下さい。
5. その他、管理者の指示に従ってください。

公園に関するお問い合わせ先

森林学習展示館

TEL 0852-66-3586

島根県立緑化センター 松江市宍道町佐々木3575

TEL 0852-66-3005 FAX 0852-66-3296

※宿泊・食事等、施設はTEL:0852-66-2500へ
(QRコードからはアクセスできません。)



ウェブサイトはこちらにアクセス

ACCESS

- 米子ICより山陰道にて車で1時間、宍道IC下車5分
- 三次東ICより松江尾道道にて車で1時間、宍道IC下車5分
- 出雲縁結び空港から車で約10分
- ※ 出雲大社まで車で約40分



美しい花や、面白い樹木
知らなかった森林の世界が
広がるガイド。



ふるさと森林公園

SHIMANE FURUSATO
FOREST PARK



樹木の花と実ガイド

島根県

ふるさと森林公園マップ



赤林浴

遊歩道

PROMENADE

8kmに及ぶ自然の遊歩道を散策すればリラックス効果あり。



展望

第1展望台

1ST OBSERVATION DECK

樹木が立ち並ぶエリアを抜ければ見えてくる展望台では素敵な景色がお待ちしています。



家族

多目的広場

MULTIPURPOSE SQUARE

子どもが走り回れる広場や滑り台などもあり1日中身体を動かして楽しめます。



- ① ~ ③① 樹木の観察ポイント
- 舗装された道
- 舗装された道(車進入禁止)
- 遊歩道(車進入禁止)

絶景ポイント 森林公園からの眺望 VIEW

穴道湖を見下ろすスポット。タイミングがあれば出雲空港から飛行機が飛び立つ瞬間も見られます。

日本庭園

NIHONTEIEN

森林学習展示館の西側に位置する。島根半島、穴道湖をイメージした日本庭園です。

庭園

森林学習展示館

FOREST LEARNING EXHIBITION HALL

森林・林業について様々な知識が学べるように視聴覚機材、パネル、標本、模型等を展示しています。



学び



アセビ (馬酔木) ①

[ツツジ科] 常緑低木～小高木
2, 3月頃、つぼ形の白い小さな花をたくさん咲かせます。ピンク色の栽培品種もあり庭木としても利用されます。全体に毒成分が含まれていて、これを食べた馬が酒に酔ったようになるので「馬酔木」と書きます。自然農薬としても使われます。



ヤブツバキ (藪椿) ②

[ツバキ科] 常緑小高木～高木
11月～4月頃と花の咲く期間が長く、ツヤのある葉と赤い花が特徴的な樹木です。サザンカに似ていますが、サザンカは花びらが一枚ずつはらはらと落ち、ヤブツバキは花一輪がそのまま落ちます。ヤブツバキの実から取れるツバキ油は、高級化粧品や食用などに利用されます。



ヒサカキ (姫椿) ③

[サカキ科] 常緑小高木～低木
3月頃、黄白色の小さな花が枝の下側にたくさん咲き、独特の香りを放ちます。葉の先端が少しくぼむのが特徴で、秋には青紫の実がなります。濃い紫色の果汁は染料に、枝は神事や仏事にも使われます。



クロモジ (黒文字) ④

[クスノキ科] 落葉低木
4月頃に黄色い花を咲かせ、秋には美しい黄葉も見られます。樹皮には所々黒い模様があり、葉や枝は良い香りがします。枝は和菓子の楊枝などに利用されています。



ツルシキミ (蔓櫻) ⑤

[ミカン科] 常緑低木
4, 5月頃、良い香りのする白い花を咲かせ、葉をちぎると柑橘系の匂いがあります。ツルシキミは少し背が高くなるミヤマシキミの変種となります。多雪地に適応して地を這う様子から「ツル」という名がつけられました。秋に赤い実がなりますが、有毒植物ですので食べられません。



コバノミツバツツジ (小葉三葉躑躅) ⑥

[ツツジ科] 落葉低木
4月頃、森の中に点々と紅紫色の花の集団がよく目立ちます。花が咲き終わってから枝先に葉が3から5枚が輪生します。公園には、よく似たダイセンミツバツツジもあります。

ヤマザクラ (山桜) ⑦

[バラ科] 落葉高木
4月頃、花と赤い若葉が同時に開きます。日本のサクラの野生種は10種ほどしかありませんが、その中の一種です。木工芸品の「カバ細工」はヤマザクラの樹皮を使います。葉の柄にある膨らんだところを蜜腺といい、アリを集めて葉を食べる虫から守ってもらいます。



ウワミズザクラ (上溝桜) ⑧

[バラ科] 落葉高木
4月頃、白い小さな花が集まってブラシ状に咲きます。花が開く前の蕾(つぼみ)を塩漬けしたものを杏仁子(アンニンゴ)といい、酒の肴や料理に使います。お茶にしても美味しいです。



ザイフリボク (采振木) ⑨

[バラ科] 落葉小高木
4月頃、枝先に白い花を集めて咲かせます。花は独特の匂いがあります。秋に黒紫色の小さな梨のような形をした実をつけます。花の様子が戦場で大将が振る采配に似ているので「ザイフリボク」といわれます。



コナラ (小楠) ⑩

[ブナ科] 落葉高木
5月頃に枝先に黄緑色の長く垂れ下がった花を付けます。秋に実るドングリは、色々な野生動物にとって重要な食料となります。材はシイタケ栽培の原木や薪炭として使われます。特に木炭は、かつてこの地方の「たたら製鉄」を支えた燃料ともなりました。人々の生活に関わり深く利用されてきた樹木です。



コバノガズミ (小葉菘蓐) ⑪

[レンブクソウ科] 落葉低木
5月頃、白い小さな花をたくさん咲かせます。葉の両面に毛があり手で触るとよく分かります。秋に赤く熟した実は少し酸味があり、果実酒などに利用されます。公園にはよく似たガズミもありますが、名の一部に「小葉(こば)」とつくように、ガズミより葉が比較的細長く、先端が尖った楕円形なので区別が出来ます。



ツクバネウツギ (小衝羽根空木) ⑫

[スイカズラ科] 落葉低木
5月頃、黄白色の花を咲かせます。花の片の数が2～3個で、葉のふちには不揃いな鋸歯があるか、または全縁です。同じ仲間のツクバネウツギは、よく片が5個で葉の鋸歯がはっきりしていることで区別できます。

アカメガシワ (赤芽柏) ⑬

[トウダイグサ科] 落葉高木～小高木
6月頃、別々の樹に雌花と雄花を咲かせます。葉身の基部に蜜腺があり、葉っぱの上をアリが歩いている姿をよく見かけます。若葉が赤く、カシワ(柏)の葉の代用として柏餅を作ったことからこの名になったという説があります。葉や樹皮は生薬として利用されます。



アカマツとクロマツ (赤松・黒松) ⑭

[マツ科] 常緑高木
花は4, 5月頃新しい枝に雄花を多数、先端に雌花を数個付けます。新芽が赤く葉が柔らかいものがアカマツ、新芽が白く葉がかたいものがクロマツです。一般的に山地にはアカマツ、海岸部にはクロマツが多くあります。クロマツは島根県の木として指定されています。



ナツハゼ (夏植) ⑮

[ツツジ科] 落葉低木
5月頃、下向きに小さな花をつけます。春先の葉は薄赤紫色をしています。秋に熟した黒い実は甘酸っぱく、食べることができます。秋の紅葉時期だけでなく、夏にも赤い葉が混じるので、この名になりました。ハゼとついでいますが、ツツジの仲間ですのでかぶれることはありません。



ヒメコウゾ (姫椿) ⑯

[クワ科] 落葉低木～小高木
5月頃に花を咲かせ、秋に熟した実は食べられますが、口当たりは良くありません。葉は長さ4～10センチと大きさに差があり、ゆがんだ卵形で、切れ込みのないものから2～3裂に切れ込みが入るもの(分裂葉という)まで変化があります。「ユネスコ無形文化遺産」に登録された石州半紙の材料に使うコウゾは、このヒメコウゾの仲間です。



トベラ (扉) ⑰

[トベラ科] 常緑低木～小高木
海岸に多く、5月頃に咲く花は白から黄色に変わっていきます。葉は先端が丸い形に変わることが多く、葉や枝をちぎると独特の匂いがあります。実は熟すと裂け、中の赤い種子が目立ちます。節分にこの枝を家の扉に付けて「鬼除け」をしたことから、この名がつけられました。



ゴンズイ (権卒) ⑱

[ミツバウツギ科] 落葉小高木
葉は複葉で、5月頃に咲く花は黄緑色で小さくあまり目立ちません。枝や葉は、ちぎると独特の匂いがあります。秋には、果皮の赤と、光沢のある黒い種子との対比が美しい実がなります。

エゴノキ (野茉莉) ⑲

[エゴノキ科] 落葉小高木～高木
5月頃、枝から下向きに多くの白い花を咲かせます。種子は野鳥のヤマガラスの好物。果皮はエゴサポニンを含み「エグイ」の名前の由来です。昔は、実をつぶして石けんの代わりにしたり、川に流して魚をとりました。材は「けし」の材料に使われる他、炭にしてガラス器や漆器の研磨に使われます。



スイカズラ (吸葛) ⑳

[スイカズラ科] 時に常緑つる性
5～6月頃に咲く花は、日が経つにつれて白色から黄色に変化するので別名「キンギンカ」ともいって、甘い香りがあります。また、花の奥には蜜が溜まっており、人々がこの花の蜜を吸った様子からこの名がつけられました。花や葉は乾燥してお茶として利用します。



ガンピ (雁皮) ㉑

[ジンチョウゲ科] 落葉低木
5～6月頃に咲く黄色い花の形はジンチョウゲによく似ていて、林の縁にみられます。樹皮は和紙の原料となり、強く光沢のある紙ができます。松江市八雲町の安部栄四郎さんは、この木を材料にした「雁皮紙」の制作で「人間国宝」に指定されました。



ヤマボウシ (山法師) ㉒

[ミズキ科] 落葉高木
5月下旬頃に花が咲きます。白く花びらに見えるのは、総苞片(そうほうへん)といい、花びらではありません。この総苞片と中心の花を、僧侶が頭巾をかぶった様子に見立てて山法師といいました。秋に熟した果実は甘くて食べられます。



ネズキ (振木) ㉓

[ツツジ科] 落葉低木～小高木
5～6月頃、つぼ形の白い小さな花をたくさん咲かせます。樹皮の裂け目がねじれたように見えるので、この名になりました。冬の枝先が赤く美しいので、花材として使います。アセビと同じく有毒植物です。



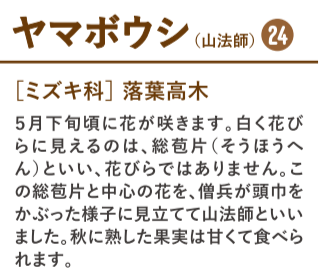
ウツギ (空木) ㉔

[アジサイ科] 落葉低木
5月頃(旧暦4月=卯月)、たくさんの白い花が咲きます。卯月に咲くことから卯の花とも呼ばれ、初夏を表す季語として和歌などによく登場します。幹が中空であることが名の由来で、材は堅く木釘などに使われ、熊野大社の「火きり杵」にもこの木が使われます。



クマノミズキ (熊野水木) ㉕

[ミズキ科] 落葉高木
6月頃に白色の小さな花を枝の上に一面に咲かせます。秋に黒く熟した実の枝が赤くなり、鳥に実のありかを知らせます。葉は対生します。名は三重県の熊野で発見されたことによります。よく似たミズキは葉が互生で、花はクマノミズキより一月早く咲き始めます。



センダン (梅檀) ㉖

[センダン科] 落葉高木
6月頃、うす紫の良い香りの花をたくさんつけます。葉っぱは鳥の羽のような付き方の複葉で、互生します。冬に残る実は良く目立ち、果実や樹皮は生薬として、材は家具・木工品などに利用されます。近年、林業では早く大きくなり利用できる樹として注目されています。



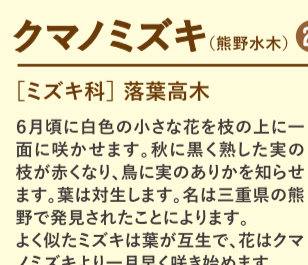
テイカカズラ (定家葛) ㉗

[キョウチクトウ科] 常緑つる性
地面を這うつるの葉は小さく、樹をのぼるつるの葉は大きくなる。というように生育環境で葉の形が変わる性質を持ちます。6月頃に咲く花は5弁のねじれた花びらが付き、芳香があります。昔、内親王を愛した歌人藤原定家が、死後も彼女を忘れられず、葛(かずら)となって彼女の墓にからみついたという伝説が名の由来といわれています。



クサギ (臭木) ㉘

[シソ科] 落葉小高木～低木
7月下旬頃からピンクがかった白色で芳香のある花をたくさん付けます。葉っぱを揉むと臭い匂いがあるので、この名になりました。秋には赤い星形のがくと、中の藍色の対比が美しい実がなります。



コウヤボウキ (高野蓐) ㉙

[キク科] 落葉小低木
10月頃に咲く花は、その年に伸びた枝の先に付きます。この枝には葉が互生し、2年枝には細長い葉が3～5個ずつ束状につきます。かつて高野山で、この枝を利用して蓐(ほうき)を作ったことがこの名の由来とされています。



ネムノキ (合歡木) ㉚

[マメ科] 落葉高木～小高木
6～7月に、花卉の目立たない花をたくさん集めて咲きます。赤く見えるのは雄しべで、一つの花に雌しべが一つあります。花は芳香があり、葉は複葉で、夜になると小葉が閉じて眠っているように見えます。秋には、豆のような種子が数個入ったサヤをつけます。

